

記念館だより

2022年5月号

『平和』について

加藤 輝勢子

4月は天候が目まぐるしく変わる中で過ごしてきたように思います。夏のようにうだる暑さの日もあれば、翌日にはまたストーブを付けたくなる日もありました。私は冗談で「これが人間だからもっているようなものですが、普通の『生もの』なら、とくに腐っていますよ。」とよく言っていたほどです。これらの気候に慣れるには今しばらく時間が必要と思いますし、特に生活環境が変わったばかりの新一年生は、規則正しい生活をする中で心身を整えていってほしいと思います。GWで少し休息が取れるとよいかなと思います。コロナ禍を過ごす中で、やっと少しずつ家族でも外出を伴う活動ができるようになってきたので、学校や学童クラブでは体験できない、家族の時間も大切にしたいものですね。

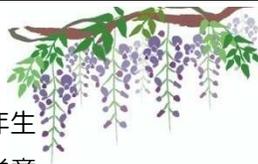
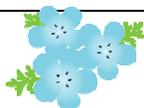
世界に目を転じれば、ウクライナでの戦争はとても心が痛みます。色々な言い分はあるかもしれませんが、力で押さえつけていくこと、また、女・子どもや高齢者が無残にも命を落としていく姿を見ると、やるせない気持ちになります。第2次世界大戦の時もそうであったのだと想像しますが、たとえ、戦争という大義名分があっても、人が人を殺すという事態は、人間を正常

に保つことはできないのではないかと思います。その意味でも一日も早く、戦争が終結することを願うものです。

創始者である賀川豊彦は本当に戦争というものが嫌いでした。中学生の時、軍事教練拒否という事件が起こりました。時は日露戦争の直後であったようです。徳島中学校で軍事教練に際して、銃の所持を拒否したという出来事です。卒業間近に野外訓練の時、武装して歓声をあげている級友たちを尻目に、いきなり銃を地上にほうりだして、「演習に行くのは、いやだ。」と叫んだそうです。「そして体育教師に怒鳴られようが、殴打されようが、再び銃を持とうとはしなかった。怒り狂った体操教師は、豊彦を校庭に殴り倒した。地べたは、鼻血で赤く染まった。」(『賀川豊彦伝』22頁)とあります。

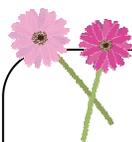
記念館の子どもたちは学校で学んだり、学童クラブで遊んだり、塾や習い事をしたりと、色々な経験をしています。そのことが大きくなり、大人になっても活かされる世の中になるとよいと思います。仲良くするとはどういうことかなど、GWに「平和」ということをご家族でも話されてはいかがでしょうか。

学童クラブ



新年度が始まって早くも1ヶ月が経ちました。新1年生にとっては、下校してからランドセルを背負って5階の学童クラブ室に上がってくることも一つのチャレンジでしたが、2週間も経つ頃にはすっかり慣れた様子で、「軽い軽い！それより宿題終わったら屋上で遊べるよね？」と頼もしい言葉を聞かせてくれていました。

ついこの間までは下級生だった新2,3年生の表情もすっかり変わってきました。新入生オリエンテーションでは、多くの1年生を前にして緊張の面持ちではあったものの、それぞれの遊び場を丁寧に紹介してくれました。毎月恒例の”小さなお話会”では、話を聴く時の姿勢のお手本になってくれます。新しい年度を迎えて、子どもたちがのびのびと成長していく姿に、私も励まされる思いがしました。(吉田)



コスモス会

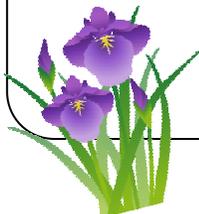


～512食に込められた思い～

2021年度のコスモス会の活動が無事に終わることができました。「無事に」というのは、さまざまな課題がありながら51回・512食の配食をすることができたということです。ひとときの「おいしい」幸せをお届けできたならば幸いなことです。

調理・配達ボランティアさんと、みなさんを送り出してくれるご家族のみなさんのおかげです。微力ながら記念館職員もバックアップできました。ワイワイとお話しながらの調理もまた楽しいときです。

しかし一方で、気力体力、そして手際がものを言う活動でもあります。新しい仲間を募っています。高齢者配食にご興味のある方、いらっしやいませんか…？(針谷)



記念館トピック

【賀川研究会】

『賀川豊彦のセツルメント運動(I) 一本所基督教産業青年会を中心として』を読み進めていきます。

5/19(木) 19:00～

本所賀川記念館3Fホール

※ 新型コロナウイルスの拡大状況によっては延期となる場合があります。

美術教室

第2～4週水曜日 15:00～17:00

講師：亀田谷亜礼先生



みんなのびのびとお絵描きや工作を楽しんでいます。描いたり、作ったりすることがもっと好きになる美術教室です。

ピアノ教室

毎週月曜日

講師：土屋 絃枝先生



保育園から小学校高学年のお友だちまで、それぞれ目標を設けてピアノの練習を楽しんでいます♪